

テーマ「説明責任・情報発信」について

はじめに

私たちは市議会の発展を期待し、それを目指す事を念頭において分科会で検討をして参りました。我々第一分科会の基本姿勢としては、違和感を覚えるような唐突的な表現・内容を控え、比較的可能と思われる方向性を目指し提言をまとめました。従って、極端と思えるような意見提示は出来るだけ控えるように努めました。

*添付した「議会へ33の疑問」にもそれぞれお考え頂きたい。

1、＜説明責任＞

説明責任の定義

○議会（議員）の発議・提言・政策を住民に理解出来るよう具体的に判り易く説明し、議会審議内容と結果を報告し、且つ議会（議員）として責任・説明を公表する。

提言

1) 目指す具体的方策

- ① 議員同士が責任を持って自由に討議・議論する議会
- ② 住民も自由に参加出来る開かれた議会
- ③ 積極的に情報を公開して透明性の有る議会
- ④ 一問一答で判り易い議論をする議会
- ⑤ 住民に判り易い議会
- ⑥ 行政となれ合わない議会
- ⑦ 住民と政策をつくる議会
- ⑧ 行政から独立した事務局を持つ議会
- ⑨ 実効性のあるチェック機能をもつ議会
- ⑩ 自ら運営できる議会

議会自身でも議会改革には取り組んでいるが、残念ながら民間のペースに比べてもその歩みは率直に言って遅い。一般社会なら当然のことではあっても、議会が検討すると時間がかかる。これでは議会自らが住民の意識・感覚と遊離してしまうのではないか。（④～⑧はすぐにでも実現可能と思われる。）

2、＜情報発信＞

情報発信の定義

○説明責任の情報手段である。議会・議員の活動内容を周知させると共に、議会と住民がその情報を共有し合い、市施策の改善に努めるべく判断資料等の提供である。

議会及び議員の説明責任とは、住民の代表として市議会基本条例第2条の「議会の活動原則」及び第3条の「議員の活動原則」を課すことにある。

議員活動等を如何に住民に周知させるかは最重要である。その情報伝達には多くの手段が有るが、中でも「議会だより」は身近なものだけに内容を充実させ、読みやすくそして何よりも配布されるのが“待ち遠しく”なるようなものにしていく事が重要で有ると考える。

「なぜ議会広報紙は読まれないか。」を考えた場合

- 1) 読む必要性を感じないので読まない。
- 2) 住民は現在の行政サービスに有る程度満足しているので、これが低下したり廃止させたりする場合を除き、議会の審議だけでなく執行機関の活動内容にも関心を示さない。

この現状を打破し少しでも価値観を上げるには相当な努力が必要である。

- 1) 現在の「議員」「問い」方式、議員別に質問と答弁とまとめるのが編集はしやすいが議会でどのような事項が大きな論議になったかは分からない。
重要度や焦点になっている事項を目立てる方式を考えるべきである。
議員間での公平性もあろうが、住民には不公平・不親切で読む側の立場を優先させるべきではないか。
- 2) 質問は議場で行なっているので、議会広報紙で議員別に質問と答弁を掲載するのは、事実を伝えているかも知れないが、それは「議会だより」では無く「全議員だより」の要素が強い。基本的には、議員個人が議員活動として出せばよいと思う。
- 3) 殿様のような議会広報紙のやり方ではなく、何が焦点なのか一目瞭然で判るような技法を取り入れたらどうか。目にとめてもらう・見てもらう、読んでもらうために懸命になっている民間手法の中から、良いものは議会広報紙に取り入れる必要がある。
- 4) 「議会だより」製作に議会側が主体的に取り組む姿勢を持つべきではないか。
編集委員会を傍聴したかぎりでは、「やらなくても良い事をやらされている委員会」と感ずる。

提言

- ① 「議会だより」の名称を変えたらどうか。
- ② 市民側より「私はこう思う。」など紙面に市民を参加させていったらどうか。
・議会傍聴記 ・議会への要望 ・議員対談 ・視察報告 ・etc
- ③ 広告を掲載して紙面を増やしたらどうか。
- ④ 参考になる解説記事を入れたらどうか。
- ④ 外国からの住民でも読めるように“ふりがな”を付けたらどうか。
- ⑤ アニメ的な描写も入れたらどうか。
- ⑦ その年度、最終版の「議会だより」には、各議員の一年間の活動報告及び特に市民に訴えたい事柄を議員それぞれ執筆発表される事を望む。
- ⑧ 編集委員会に住民を入れたらどうか。
- ⑨ 松本市「子ども議会」の開催を希望（年1回程度）
市の将来を担う子どもたちが、市役所・市議会の仕事や仕組みを勉強し、体験することで、政治を身近にとらえてもらい、まちづくりに進んで参加しようとする意欲を育てる。

以上

松本市議会ステップアップ市民会議 第一分科会

| | |
|----|--------|
| 座長 | 飯塚 則之 |
| 委員 | 村山 忠勇 |
| 委員 | 鎌田 哲也 |
| 委員 | 坂井田 金一 |
| 委員 | 石曾根 一能 |

議会に 33 の疑問

（順不同）

22-MAR-2012 現在

- 1、 議事堂にはなぜ国旗・市旗は掲揚されていないのか。
- 2、 本会議には質問者に3回の登壇の機会が有るのに、なぜ反論は無いのか。
- 3、 その日の発言者の支持者達が傍聴に来て、それが終わるとなぜ潮を引くように帰ってしまうのか。
- 4、 会期中、同じ質問をなぜ皆で行うのか。
- 5、 会派の目的と効果（成果）とは何なのか。なぜ必要なのか。
- 6、 新規施策・住民に歓迎される施策はなぜ市長の成果となってしまうのか。
- 7、 Mr,交通 Ms,福祉というような専門家がなぜ誕生出来ないのか。
- 8、 トリプル a と評価される議会の選挙が、なぜ投票率が50%を切ってしまうのか。
- 9、 議員が42人から31人になっても、議会がなにも変わらないのはなぜか。
- 10、 31人に大幅に減っても「もとに戻せ！」という住民がいないのはなぜか。
- 11、 議員控え室はなぜ執務室にしないのか。
- 12、 議員の中に何年も質問をしない人がいるのはなぜか。
- 13、 市政報告会が不評で集まらないと言われるがなぜ知恵を出さないのか。
- 14、 住民が関心を持つようなテーマはなぜ発生しないのか。
- 15、 初めてと言われる「市議会提案テーマ」の第一番がなぜ「ゾーン30」なのか。
- 16、 若い人たちに関心を与えるような議会の方向性をなぜ考えないか。
- 17、 議員はなぜ自分の選挙母体に向けて議会活動をしてしまうのか。
- 18、 市長の来期の動向に議会がなぜそれほど関心を寄せるのか。
- 19、 「都市デザイン学習会」市議へのアンケート、全市議31名中なぜ19人しか回答しないのか。
- 20、 市職員の不祥事が相次ぐ中で、なぜ議会は住民を代表した意見が無いのか。
- 21、 税金の使い方（もったいない）に関する提言はなぜ少ないのか。
- 22、 「次世代交通」視察は欧州5都市に。なぜ疑問を感じないのか。
- 23、 政務調査費収支報告はなぜ残額0にて提示されるのか。
- 24、 一般質問をした内容について、その議員はなぜ最終結論まで追わないのか。
- 25、 市議会がオール与党と言われてしまうのはなぜか。
- 26、 議決や議会報告を経ず損害賠償を見逃してはいないか。
- 27、 「税金が無駄に使われていないか」調査はされているのか。
- 28、 商都松本が消えていくと言われながら、なぜ中心部にビル・マンション高層建築を見逃すのか。
- 29、 議会の重点目標が住民に判らないのはなぜか。
- 30、 「議員は暇だ」と多くの住民が感じてしまうのはなぜか。
- 31、 「議会だより」にはなぜ住民は登場しないのか。

- 3 2、 住民は地域の行政を担当しているのは執行機関だけでなく、それを実質的に担保している議会の役割、縁の下の役割をなぜ認識出来ないのか。
- 3 3、 議員の中に「2010年分政治資金報告書」を8カ月も過ぎて12/16に提出しているのはなぜか。

以上